

外國送金爲替

南米は移民の好試験所

帝國政府の講和方針

原首相の聲明、内田外相の敷衍も
講和會議公報に依れば五大國委
一月下旬より引續き太平洋及び

さりしやを怪しむ者渺々からざれど
も人種的差別云々の語は餘りに露骨
にして日本國民自ら卑下するが如き
態度に召るの観なき能はず勿論七
告 二

急にオインフレで済く問題を免れた。
はない、處が世
ルビオン・ジユニヨール驛でモンサン
から來たと云ふ日本人が乗つた。
『棉はどうですか』
きよなは

、本年度（自大正九年三月三十日）在リベイロンア付スル各種證明ニ付スル件二付伯貿武一件ニ付伯貿武
一、戸籍、身分ニ關證明願（但シ徵明願ヲ除ク）ニシモノハ在リベイロ
三隅葉藏宛トスベ
右告示ス
大正八年四月一日
在サンバウ

『去年程の景氣はありませんが、二
アルケール百五十アローバ平均は
ありますから、まあ好い方でしや
う、ノロエヌテ線があまり好い説
判ですから此間一寸行つて見ま
たが、矢張棉はモンソンに限りな
す、米や豆だつてそう引けは取り
ません』

『一アルケール百五十アローバしか
取れませんか、私が聞いたのでは
四百アローバと云ふ事でしたが』

『ハ………、話半分ですタイ』

『それでは貴方の話も半分にして七
十五アローバですか？』

帝國總領事館

〔去今年程の景氣はありませんが、一
アルケール百五十アローバ平均は
ありますから、まあ好い方でしや
う、ノロエステ線があまり好い評
判ですから此間一寸行つて見ま
たが、矢張様はモンソンに限りき
す、米や豆だつてそう引けは取り
ません』

『一アルケール百五十アローバしか
取れませんか、私が聞いたのでは
四百アローバと云ふ事でしたが』

『ハ……、話半分ですタイ』

『それでは貴方の話も半分にして七
十五アローバですか』

『一寸横槍を入れた處、

田舎を歩いて（二）

時報記者足下　單調な生活に飽き飽きして居る折も折、宮島博士の紫外線の講演を聞いて急に田舎の赤土が懐しくなり、居は心を移すの古語を今更らしく感心して一二枚の着換えを古新聞に込み、ソロカバナ線を取つて馬トグロソ行の途上つたのは三月卅一日の午前六時だつた。足下も承知の通り年百年中貧乏ばかりして居る僕が如何に紫外線の影響に神經を悩ましたとて急にオインソルビオンシユニヨール驛でモンソンのをシボに横になつて寝をきめ込んでも漸く愚問を免れた。

「棉はどうですか」
『去年程の景氣はありませんが、一アルケール百五十アローバ平均はありますから、まあ好い方でしやう、ノロエステ線があまり好い誣判ですか此間一寸行つて見ましたが、矢張棉はモンソンに限りらず、米や豆だつてそう引けは取りませんか、私が聞いたのでは四百アローバと云ふ事でしたか』
『ハ……、話半分ですタイ』
『イヤ俺は土地賣りぢやありませんか子』
『一寸横槍を入れた處、

告示

一、戸籍、身分ニ關スル届書及各種證明願（但シ徵集猶豫ニ關スル證付スル各種證明ニ對スル手數料ヲ一件ニ付伯貨貳「ミルレース」ト定ム。

大正八年四月一日
在サンバウロ

右告示ス

明願ヲ除クニシテ分館ニ提出ノモノハ在リベイロンブレット副領事
三隅棄藏宛トスベシ

帝國總領事館

●青山憲法記念館に
各皇族殿下を始め奉り大勳位、各國務大臣其他綺羅星の如く参列
●聖駕を迎へ奉りて

日本近信

各皇族殿下を始め奉り大勳位、各國務大臣其他綺羅星の如く参列

憲法發布三十年記念祝典

憲法發布三十年記念祝典

憲法發布三十年記念祝典は二月十一日午後三時青山種田原憲法記念館にて舉行せられたり、當日天皇陛下には御風氣のため御名代として閑院宮殿下皇族公式歎舞席々午後三時憲法記念館に臺臨相成りたり

これより先き柳田貴族院書記官

寺田衆議院書記官

下貴衆兩院書記官

は午前十時半頃より

官長病氣缺席

式場の準備を整へ宮内省式部官又諸般の準備をなす斯くて大岡衆議院議長(徳川貴族院議長病氣缺席)黒田寅田貴衆兩院副議長其他兩院議員等約八百餘名は定刻前より随意參集第一振鈴を相圖に大縁門内に整列

時々たる奏樂の裡に御名代宮殿下を奉迎御名代宮には黒田副議長を先導に御休憩所に御休憩此間兩院議員は所定の式場に整列す總て三時十分御名代宮には黒田副議長の先導により

御臨場

◆一同最敬禮 御名代宮の右側には久邇宮邦彦王、朝香宮鳩彥王、北白川宮邦久王、竹田宮恒久王各殿左側には御名代宮各隨員等整列す此

時黒田副議長恭しく

御前に進み 貴族院の賀表を朗讀

下、東郷大勳位、原首相以下各國務大臣、同侍位、原官爵遇外交調査會委員、清浦樞密院副議長各権顧問、清浦樞密院副議長、貴

衆兩院正副議長

左側には御名代宮各隨員等整列す此

時黒田副議長恭しく

御前に進み 貴族院の賀表を朗讀

下、東郷大勳位、原首相以下各國務大臣、同侍位、原官爵遇外交調

査會委員、清浦樞密院副議長、貴

衆兩院正副議長

左側には御名代宮各隨員等整列す此

時黒田副議長恭しく

御前に進み 貴族院の賀表を朗讀

下、東郷大

松井須磨子、
日向きむ子

(三) 茅原華山



大蛇退治と白い藏

ここで急に涙を流して、さも悲しきな聲を出したながら、「私の命は何時も差し上げませう、けれど私は今腹に赤ん坊を孕んでゐます、どう赤ん坊が産れるまで、私の命を預て下さい」と申しました。獵人は赤ん坊まで殺すのは可哀うだと思ひました、けれど森の神から教はつた「一番大事なもの」を忘れませんでしたから、「どうぞ慈悲を」といふお姫さまの言を、耳にもかけず鐵砲を撃ちました。お姫さまは苦しい息をつき、傷から流れる血を指しながら「このない血で、世間の白いものは皆赤くされ」と叫びました、その時山中が風になり、三日三晩ごいふ間大荒に荒れてしまつた。大蛇はとうとう死にました。大蛇の身體から出た赤い血が麓の川に流れ込んで真赤な血の池となりました、此の池を今では赤池と呼んでいます。

豫期した如く Heitor Lages 駅はノロエステ線に於ける同胞發展の中心となりつゝあるは私共の喜とする所であります。我れがちに押し寄せて來る殖民者ハ爲に今日のノロエステ沿線に殆んど私共の希望する條件に叶ふ土地を得ることが出來ませんのに、獨り吾がエートルドレグルー駅は極く最近迄十人が居住して居つた爲めに其發展を阻害せられ、天與の富源を有りの儘に殘して置かれたのは恰かも私共日東男子の爲めに神様が供へてくれた様なものであります。

今回賣り出す土地は「サンパウロ土地材木殖民會社」ノ所有地で當殖民地と隣接し地質は所謂、バウダリヨ地帶で、其肥沃なるは如何なる穀類の栽培にも適すことを保證致します。衛生の上から云ふても既に五家族の同胞殖民者があるが今日迄一人の病者無きに徵して明白であります、土地の支拂條件は他に比を見ざる程寛大にして殖民者の便宜を計つてゐます。希望者は百聞一見にしかずと申す通り此絶好の機會を逸することなく、當殖民地の實情調査の上御希望の土地を撰定せられんことを望みます。御照會は總て左記宛に願ひます。

イタコ口ミー殖民事務所

Escriptorio da Fazenda Itacolomy

文獻卷

實價七ミル五百レース

右伯語研究會の依託に據り實價を以て販賣
す御入用の方は代金に郵稅を添へ申込あれ、
發送は着金順一定む

◎イグアペ植民地はイグアペ植民地本部
◎リベイロン附近はリベイロン時報支社

取次所

伯刺西爾時報社營業部
Notícias do Brazil

Gaija Post

卷之二

卷之三

卷之三

第十八席 平内無敵齋の道場
にて大言を吐く事
何卒主人慶三郎御近付のために組酒
一盞呈したく至急御來駕下さるやうにこの使者の口上であります、阪田
藤十郎は是を開いて「藤」フ、ム堵は貴殿を松平大和守様へ推挙いたる
といふ考へと相見える「平」成程、或は然うか知れんが兎も角も折角の招待を往つて見るでござらう」と無顧着な平内長守だ、仕度を改めて其儘駕籠に乗つて来ましたのが麴町平内殿
町の平松慶三郎の屋敷であります、度「これは」能うこそ御入來、イエモうござ
ザ……』さばかり鄭重な扱ひ、脩て用意の珍味佳肴が夫れへずらりと一室に通つて席定まりました時に御運ばれる度『さて平内殿、昨日は誠に失禮を致しました、早速の御来駕
此上の光榮はござらん』平イエモうござ
今日は熊々御招きに預り御辭退申す
も失禮と存じ推參いたしました次第
慶早速の御入來實に辱なうござ
サ何はなくとも粗酒一盞……』と勿
ち酒宴ご相成りましたが平内は毎々申上げる通り極めて淡白な人で、何の隠でもなく既に十年も文はつたやうな有様で笑ひ興じて飲んで居る、時に平松慶三郎が慶『さて余氏昨日は貴殿のお腕前には拙者つくべ懼れ
入つた、先づ門弟の數は數萬あり、雖も、柳生流の秘傳を感じ得するものは貴殿の外にはありますまい』平
深き田舎に人となり劍術、：術など押通すだけの事でござる、左様お車の鼻面みたいな所に居つて天下の士勢は知らず、昨日柳生家に推參いたして驚き入りました、唯もう我流で申すも時計がましく、先是劍振りごとも申さうか、猫の額が半ばに預つて赤面致す』と謙遜しながら平松慶三郎の様子を窺ふ

ひのないやうに、又移り挂合ひのないやうにいたしたい、篤考は旨いと云ふ徑路を通じて身へることは更にござらぬ、其の篤考は、旨いと云ふ徑路を通じて身下されたい。平「何のく、篤考は、旨いと云ふ徑路を通じて身下を取る羽二重の單物に兩刀を帶にへシ折つて其の片割を必ず持参い。たるもののが小供にお砂糖や、お菓子を申すやうちやがお燐を熱く付けて與へてゆかねばならぬのが普通たさうから慶マ、もう一盞召上つてから……」平「氣掛りでござる、看板は二ツ板の破片を持参いたしてから悠然之れを下物に飲まう、甚だ贅澤なことを申すやうちやがお燐を熱く付けて與へてゆかねばならぬのが普通置かして戴きたい、汝ツ……」と怒氣を含んで平内は赤城無敵齋の道場目に蒐けて乘込み來つた。

婦人欄

目的なしの慾は有害

◆私共は毎日一生懸命に働いてゐますが、一體何の爲めに働くのでせうか、或る人はお金の爲めに働くのだと申しますけれど、お金は人生の目的にはなりません、別な言葉を以て申しますれば、お金は欲しい物を買ふ時の媒介の用をたゞに過ぎないもので、いはゞ目的を達する極致の申しますれば、お金は私共の目的として、最も金其の物を私共の目的として、最も役目を爲すに過ぎないものであります、ですからお金は私共にどつて必ず、ですからお金は私共にどつて必ず、何なごともする云ふことは、根本的に於て大なる誤りがあるのであります。

◆先づ手近な例をとつて申しますれば、小供は何處の小供も様に甘いものを好きます、お砂糖でござれ、お菓子でござれ、甘いものなら何んでも食べたります、之はなせであります。

◆私共は毎日一生懸命に働いてゐますが、一體何の爲めに働くのでせうか、或る人はお金の爲めに働くのだと申しますけれど、お金は人生の目的にはなりません、別な言葉を以て申しますれば、お金は欲しい物を買ふ時の媒介の用をたゞに過ぎないもので、いはゞ目的を達する極致の申しますれば、お金は私共の目的として、最も金其の物を私共の目的として、最も役目を爲すに過ぎないものであります、ですからお金は私共にどつて必ず、何なごともする云ふことは、根本的に於て大なる誤りがあるのであります。

◆怡度之と同様に私共のお金が欲ないと云ふことは、お金が欲しいことその奥底に、お金の欲しい大目が無くてはならぬのであります、其の目的的有る處を覺らすして唯だ徒らにお金を欲しがる人があります。

◆無論小供に糖分の必要なが如大人の私共にはお金の必要があり、ですから私共は可能丈經濟的お金もヨリ多く貯める様に努めなければなりませんが、其のお金を貯めの爲めに、種々の禍を釀して遂に減せざるを得ないことになるのであります。

◆康を害ねる様に、自分自ら其のお金もヨリ多く貯める様に努めなければなりませんが、其のお金を貯め度其處に大破滅が來つて、自分は論小供も兄弟姉妹も非非常な不幸にかなくてはなりません。若し目的を達する事をお金を儲けんとするならば、度其處に大破滅が來つて、自分はこれを知らなければなりません。

◆然らば其の目的とは何でせうか曰く『平和的家庭』其れであります。そして其の平和的家庭の要素は、一に健康、第二に愛情、第三に親愛、主婦たり、又は主婦たらんとするにこりましては、此の目的を脱れ、ありますから、私共の様に家庭の慾心や、無理の行ひは断じて慎まねばなりません。

婦人欄

今般當館に於て在留日本人土地所有者名簿を作成候に付 土地所有者は至急左記の事項を届出相成たし

告 示

右 告 示 す

一、原籍 姓 名

二、土地の所在地及最近停車場名

三、土地の面積及買入地價

四、地價全部拂込済の土地券所有の有無

五、年賦拂込の者は其拂込の方法及契約の時日并に拂込済金額

ANTUNES DOS SANTOS & COMP.
AGENTES DAS COMPANHIAS
NIPPON YUGEN KAISHA — OSAKA SHOGEN KAISHA

大阪商船會社定期船

帝國總領事館
Caixa Postal 1167
San Francisco

Rua Libero Badaro 93, S. P.
(Santos 1.000-251)

アントニオ・トマス

Rua Vergueiro 15. S. Paul (Caixa Postal 1052)

伯刺西爾移民組合支鄭

五月十八日頃サントス着豫定

さぬき丸

郵船會社定期船

但し乗客は搭載致さず候

スマート丸

該商船會社定期船

二二

Caixa Postal 1167

帝國總領事館

卷之三

抒述源金客

の者は其拂込の方法及
認

佛人賈の上也半音百二首

所在地及最近停車場名

生名

地所有者は至急左記の事項

二十六